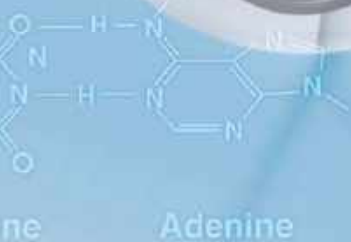


高校生のための

# 九州大学 医学部医学科紹介

Kyushu University School of Medicine Department of Medicine



2010年度

# 「医学部医学科入学を志す諸君へ」



九州大学医学部医学科長

高柳 涼一

九州大学医学部は、1903年、県立福岡病院をもとに勅令によって作られました。医学部の在るこのあたりは、当時は一帯の松林、千代の松原できこえた松の名所で、だだっ広い淋しい場所だったようです。本学の編集による「九州大学医学部百年史」を紐解きますと、医学部創立に対する福岡の町の熱狂的な期待と喜びを伺い知ることができます。建学のために、全国からこの地を集った超一流の教授陣の溢れんばかりの熱意を知り、東京の「第一高等学校第三部卒業生23名」による「福岡に入学せん、進んで新設の大学に入り、医学界に新風を巻き起こさん」という入学生としての決意の書に接しますと、先人の建学の志の高さと情熱に圧倒され、後輩としては大いに鼓舞され、発奮いたします。

創立以来100有余年、九州大学医学部は、先人の弛まぬ努力によって輝かしい業績を挙げ、国民と国家の期待に応えて来ました。この輝かしい歴史の一端を、広い医学部構内の散策によって諸君も知ることが可能です。医学部構内の主要道路には本学に功労のあった教授・先輩の名前がついています。正門から入って総合外来に向かうメインストリートは、本学の創設にもっとも功績があり、我が国最初の帝王切開（開腹手術）を行った人として医学会に不朽の名を留める大森治豊初代学長に因んだ「大森通り」です。基礎A棟・旧内科棟前の道路はウイル氏病の病原体を発見した稲田龍吉教授に因んで「稲田通り」、基礎B棟・臨床研究棟の前の道路は日本住血吸虫病の中間宿主ミヤイリ貝の発見者として知られる宮入慶之助教授に因んで「宮入通り」と呼ばれています。東門から宮入通りに至る道路は心臓刺激伝導系の研究で不滅の功績を残し、心臓ペースメーカーの父として、世界的に知られる田原淳教授に因んで「田原通り」、正門から西の同窓会館へ向かう道路は初代耳鼻咽喉科教授で歌人としても著名であった久保猪之吉教授に因んで「久保通り」、総合外来前の道はハシモト病の発見者橋本策博士に因んで「橋本通り」と名付けられています。道路にはその案内碑が立っていますので、先人の功績を是非歩きながら確かめて欲しいと思います。

こんにち、九州大学医学部は「秀でた、独創的で先端的な基礎医学研究、臨床医学研究、医療の実践」に従事すると共に、これを担う「優秀な人材を育成」することを目指しています。これらの研究・教育活動を通して、社会貢献・国際貢献に積極的に尽くしたいと考えています。

国立大学の法人化（2004年）によって、本学は「国立大学法人 九州大学」の医学研究院となりました。国によって重点化された大学院大学ですから、医学研究院に属する教員は医学・医療の先端研究を通じての社会貢献・国際貢献を、第1目標としています。教員はさらに医学

系大学院（学府）の教育と医学部医学科の学生教育・研究指導に努めると共に、大学病院の診療に従事しています。

九州大学医学部で学ぼうとする諸君には、本学の輝かしい歴史を継承しつつ、世界の医学研究と医療の最先端にあつて、多くの人々に幸せをもたらす、素晴らしい医学者や医師になって欲しい、と強く希望します。医師を指導する医師、医学を発展推進させる医学者、Physician Scientistになっていただきたいと希望します。

九州大学医学部は諸君が医学者や医師として大成するための機会に溢れています。入学後は、ここで良い師と友人を得て、真の学問・医学に真剣に取り組んでいただきたい、と思います。董仲舒の言葉「事は強勉に在るのみ」のとおり、「何事も、ただ勉強することによって、成否は決定します」。志を立て、大いに勉強し、初志を貫徹して戴きたい、と切に願います。

## 沿革／History —おもな年表—

- 明治36年4月1日 京都帝国大学福岡医科大学開設  
解剖学、内科学、外科学、眼科学各1講座開設
- 〳 36年9月11日 生理学、医化学各1講座開設
  - 〳 36年9月14日 第1回入学宣誓式挙行
  - 〳 36年9月22日 第1回教授会開催
  - 〳 37年5月20日 解剖学、外科学を2講座に増設、病理学、小児科学、衛生学各1講座を開設
  - 〳 38年3月22日 内科学を2講座に増設、薬物学、婦人科学産科学各1講座開設
  - 〳 38年11月13日 第1回解剖体祭を万行寺にて執行
  - 〳 39年4月23日 皮膚病学、微生物学、法医学、精神病学、耳鼻咽喉科学各1講座開設
  - 〳 40年5月9日 病理学が2講座となる
  - 〳 40年12月12日 第1回卒業証書授与式挙行
  - 〳 41年5月1日 解剖学が3講座となる
  - 〳 42年5月24日 内科学が3講座となり整形外科学講座開設
  - 〳 44年4月1日 京都帝国大学福岡医科大学が九州帝国大学医科大学となる
  - 〳 45年5月29日 衛生学が2講座となる
- 大正7年6月18日 生理学が2講座となる
- 〳 8年4月1日 九州帝国大学医科大学は九州帝国大学医学部となる
  - 〳 11年5月29日 歯科学講座開設
  - 〳 12年1月19日 衛生学2講座は衛生学講座と細菌学講座とに分立
  - 〳 13年7月7日 皮膚病学、微生物学講座は皮膚科学、泌尿器科学講座の2講座となる
- 昭和2年10月7日 歯科学は歯科学、口腔外科学講座となる
- 〳 3年10月24日 創立25周年記念祝典挙行
  - 〳 4年12月17日 放射線治療学講座開設
  - 〳 11年3月27日 薬物学講座は薬理学講座と改称、皮膚科学、泌尿器科学講座は皮膚科学講座と泌尿器科学講座に分立
  - 〳 14年5月13日 臨時附属医学専門部設置
  - 〳 15年12月10日 民族衛生学・植民衛生学講座開設
  - 〳 17年9月23日 臨時附属医学専門部第1回卒業式挙行
  - 〳 19年3月31日 臨時附属医学専門部は附属医学専門部と改称
  - 〳 19年5月10日 熱帯伝染病研究所設立
  - 〳 20年4月1日 環境医学研究所設立
  - 〳 21年2月14日 熱帯伝染病研究所を風土病研究所と改称
  - 〳 21年3月1日 民族衛生学・植民衛生学講座は民族衛生学講座と改称
  - 〳 22年10月1日 九州帝国大学医学部は九州大学医学部となる
  - 〳 24年12月1日 放射線治療学講座を放射線医学講座と改称
  - 〳 25年4月1日 薬学科設置3講座が開設
  - 〳 26年4月1日 衛生学講座と民族衛生学講座は衛生学第1講座、衛生学第2講座となる  
寄生虫学講座開設、薬学科が5講座となる



- 昭和27年4月1日 結核研究施設、助産婦学校、看護学校設置、薬学科が7講座となる、附属医学専門部廃止
- 〳 28年4月1日 精神病学講座は神経精神医学講座と改称
  - 〳 28年5月3日 医学部創立50周年記念式典挙行
  - 〳 29年4月1日 診療工ツクス線技師学校設置
  - 〳 29年9月9日 衛生学第1講座は衛生学講座に衛生学第2講座は公衆衛生学講座と改称
  - 〳 30年4月1日 九州大学大学院医学研究科設置
  - 〳 30年10月31日 癌研究室開設
  - 〳 31年7月16日 九州大学附属図書館に医学部分館設置
  - 〳 32年4月1日 がん研究施設設置、化学部門開設
  - 〳 33年4月1日 心臓血管研究施設設置、内科部門開設
  - 〳 35年4月1日 結核研究施設は胸部疾患研究施設にがん研究施設が癌研究施設と改称、衛生検査技師学校設置
  - 〳 36年4月1日 精神身体医学研究施設設置、癌研究施設に病理部門開設
  - 〳 37年4月1日 麻酔学講座開設
  - 〳 38年4月1日 精神身体医学研究施設廃止、精神身体医学講座、放射線基礎医学講座開設、放射線医学講座は放射線科学講座と改称、脳神経病研究施設設置、内科部門開設
  - 〳 39年4月1日 薬学科を薬学部薬学科に振替
  - 〳 41年4月1日 医化学講座は生化学第1講座となり、第2講座開設、脳神経病研究施設に外科部門開設
  - 〳 42年4月1日 癌研究施設に細胞部門開設
  - 〳 42年6月1日 歯科学口腔外科学講座は口腔外科学として歯学部振替
  - 〳 47年3月31日 衛生検査技師学校廃止
  - 〳 48年3月31日 看護学校及び診療放射線技師学校廃止
  - 〳 48年4月12日 ウイルス学講座開設、心臓血管研究施設に外科部門開設、動物実験施設設置
  - 〳 48年11月24日 創立70周年記念式典挙行
  - 〳 49年4月11日 脳神経病研究施設に病理部門開設
  - 〳 51年4月1日 癌研究施設に免疫部門開設
  - 〳 52年4月18日 臨床薬理学講座開設
  - 〳 53年3月31日 助産婦学校廃止
  - 〳 53年11月25日 創立75周年記念式典挙行
  - 〳 54年4月1日 小児外科学講座開設
  - 〳 56年4月1日 遺伝情報実験施設設置
  - 〳 57年4月1日 脳神経病研究施設に生理部門開設
  - 〳 57年4月1日 癌研究施設は生体防御医学研究所に改組のため廃止
  - 〳 58年11月5日 創立80周年記念式典挙行
  - 〳 60年4月1日 遺伝情報実験施設は学内共同利用施設となる
  - 〳 61年4月1日 医学研究科を医学系研究科に拡充改組、分子医学系専攻博士課程及び分子生命科学系専攻博士課程（後期3年の課程のみの博士課程）増設

- 昭和62年5月21日 心臓血管研究施設に臨床細胞科学部門開設
- 〃 63年4月8日 統合教育研究実習センター設置
- 平成元年5月29日 麻醉学講座は麻醉・蘇生学講座と改称
- 〃 元年5月29日 脳神経病研究施設の生理部門を廃止し、同施設に臨床神経生理部門開設
- 〃 6年4月1日 臨床検査医学講座開設
- 〃 7年5月29日 医学系研究科社会医学系専攻医療システム学講座開設
- 〃 9年4月1日 心臓血管研究施設の臨床細胞科学部門を廃止し、同施設に分子細胞情報学部門開設
- 医学系研究科の再編成により、機能制御医学専攻・生殖発達医学専攻開設  
(大学院整備(重点化)3か年計画の初年次)
- 〃 10年4月8日 医学系研究科の再編成により、病態医学専攻・臓器機能医学専攻開設  
(大学院整備(重点化)3か年計画の2年次)
- 〃 11年4月1日 医学系研究科の再編により、分子常態医学専攻・環境社会医学専攻開設  
(大学院整備(重点化)3か年計画完了)
- 胸部疾患研究施設・心臓血管研究施設・脳神経病研究施設は、医学系研究科の附属研究施設となる
- 〃 12年4月1日 医学系研究科を廃止し、医学系学府(大学院教育組織)及び医学研究院(大学院研究組織)を設置
- 胸部疾患研究施設・心臓血管研究施設・脳神経病研究施設・動物実験施設は、医学研究院の附属研究施設となる
- 〃 13年4月1日 大学院医学研究院環境社会医学部門に医療経営・管理学講座が設置され、大学院医学系学府に医療経営・管理学専攻修士課程(専門大学院)が設置された
- 〃 14年10月1日 医学部に保健学科が設置され、医療技術短期大学部は、同部学生が在学する間存続することとなった
- 〃 15年3月8日 創立100周年記念式典挙行
- 〃 15年4月1日 医学研究院の8部門を基礎医学部門、先端医療医学部門、臨床医学部門、分子生命科学系部門及び医学教育学部門の5部門に、23講座を11講座に再編
- 大学院医学系学府に医科学専攻(修士課程)が設置された
- 医学研究院附属統合教育研究実習センターを廃止し、全学共同教育研究施設として医療系統合教育研究センターを設置
- 大学院システム生命科学府の設置に伴い、大学院医学系学府分子生命科学系専攻は、同専攻学生が在学する間存続することとなった
- 学校教育法の改正により、大学院医学系学府医療経営・管理学専攻修士課程(専門大学院)は、同(専門職大学院)となる
- 〃 16年4月1日 九州大学は国立大学法人九州大学が設置する大学となった
- 〃 19年4月1日 医学部に生命科学科を設置
- 大学院医学系学府に保健学専攻(修士課程)を設置
- 〃 20年4月1日 大学院医学系学府博士課程を1専攻に再編
- 〃 21年4月1日 大学院医学系学府に保健学専攻(博士後期課程)を設置

# 医学部

## 医学部医学科アドミッションポリシー

21世紀の医学は、遺伝子治療や再生医学・医療など重要で魅力あふれる分野が多くあります。医学部医学科においても、高度先端医療の研究と実施にむけて、これまでの伝統を基盤にして、独創性に富んだ国際的視野をもつ医学者の養成を行っています。それと同時に、臨床の場では診療行為の実力とともに人間味あふれ、社会性に富んだ医師の育成を目指しています。そのために、人の生命に興味をもち、その研究に情熱を燃やし、積極性と活力をもって医学に取り組むことができる学生を歓迎します。

### 教育理念・目標、育成する人材像等

医学部医学科は、医学に関する知識・技術の教育を基盤にし、医の倫理に徹し、旺盛な探求心を有

## カリキ

1 年 次		2 年 次	3 年 次					
総合医学 医学入門	系統医学Ⅰ 医学生物学概論 人体構造概論	社 会 医 学 国 際 医 学						
	<b>全学教育科目</b> <table border="1"> <tr> <td>教 養 教 育 科 目</td> <td>共通コア科目 コアセミナー 文系コア科目 理系コア科目 言語文化基礎科目 健康・スポーツ科学科目</td> </tr> <tr> <td colspan="2">理系基礎科目</td> </tr> <tr> <td colspan="2">情報処理科目</td> </tr> </table>	教 養 教 育 科 目	共通コア科目 コアセミナー 文系コア科目 理系コア科目 言語文化基礎科目 健康・スポーツ科学科目	理系基礎科目		情報処理科目		<b>系 統 医 学 Ⅱ</b> 解 剖 学 Ⅰ 生 化 学 Ⅰ 生 化 学 Ⅱ 生 理 学 Ⅰ  <b>総 合 医 学 Ⅲ</b> 系統医学Ⅱ連携セミナー  <b>系 統 医 学 Ⅲ</b> 解 剖 学 Ⅱ 解 剖 学 Ⅲ 遺 伝 学 放 射 線 基 礎 医 学  <b>総 合 医 学 Ⅲ</b> 系統医学Ⅲ連携セミナー
教 養 教 育 科 目		共通コア科目 コアセミナー 文系コア科目 理系コア科目 言語文化基礎科目 健康・スポーツ科学科目						
理系基礎科目								
情報処理科目								
		高年次教養科目						

# 医学科案内

する医師及び医学研究者を育成することを目的としています。創始以来約100年の伝統に培われた医学科の教育・研究の成果として、世界の医学界に誇る数多くの研究業績があります。またその名声により遠近を問わず広く一般患者に利用されている大学病院は、より高度な医療と社会福祉の実現に向かって全力をはらっています。医師・医学者には自然科学者としての適性が求められる一方、病気と闘う患者に寄り添うよき援助者であることも求められます。さらに医師の判断は患者の人生に大きな影響を与える可能性があります。医学部医学科での教育・研究は、専門性の修得ばかりではなく、広く深く人間についての洞察を重ねることへとつながるものです。

「人の健康と福祉の増進」という医学の使命を達成するための多様な人材を育成することが目的です。

# ユラム

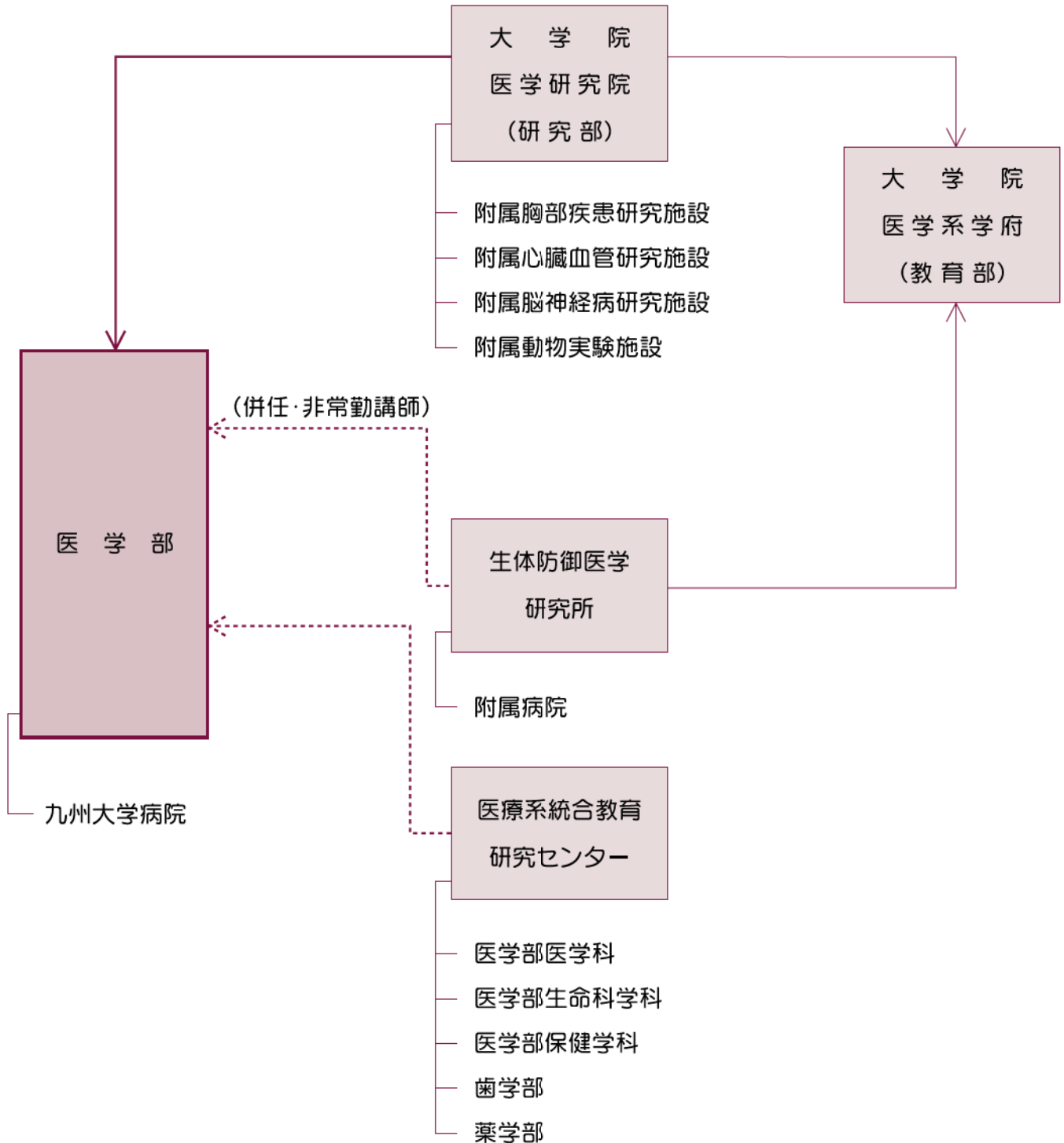
(平成22年度現在)

4年次	5年次	6年次
<b>社 会 医 学</b> <b>国 際 医 学</b>		
<b>系 統 医 学 VI</b> 視 器 聴・嗅・味覚器 皮 膚 内 分 泌 ・ 代 謝 感 染 症 ・ 中 毒 アレルギー・膠原病 受胎・成長・発達 心 身 医 学 精 神 医 学 侵 襲 医 学 救 急 医 学 臨床検査・放射線医学 歯 科 口 腔 外 科 学  <b>総 合 医 学 VI</b> 系統医学VI連携セミナー  <b>臨 床 入 門</b> 臨床医学基本実習 O S C E C B T  <b>総 合 医 学 VII</b>	<b>臨 床 実 習 I</b>	
	<b>臨 床 実 習 II</b> 血 液 ・ 腫 瘍 内 科 免疫・膠原病・感染症内科 消 化 管 内 科 腎・高血圧・脳血管内科 内 分 泌 代 謝 ・ 糖 尿 病 内 科 肝 臓 ・ 膵 臓 ・ 胆 道 内 科 心 療 内 科 神 経 内 科 循 環 器 内 科 呼 吸 器 科 産 科 婦 人 科 小 児 科 第 一 外 科 第 二 外 科 整 形 外 科 脳 神 経 外 科 心 臓 血 管 外 科 小 児 外 科 皮 膚 科 泌 尿 器 科 精 神 科 神 経 科 眼 科 耳 鼻 咽 喉 科 ・ 頭 頸 部 外 科 放 射 線 科 麻 酔 科 蘇 生 科 総 合 診 療 科	
<b>高年次教養科目</b>		



## 医学研究院と医学部医学科・生命科学科、医学系学府の構成図

- 1) 医学研究院 教員が所属するところで、研究活動が行われる
- 2) 医学部 学部学生を教育するところ
- 3) 医学系学府 大学院学生を教育するところ



# 学 生 / Students

## (1) 学生定員及び在籍学生数 Enrollment Limit and Present Number

学 部

School of Medicine

(平成22年5月1日現在)

As of May 1st, 2010

	定員及び在籍学生数 Classification	1年 1st year	2年 2nd year	3年 3rd year	4年 4th year	5年 5th year	6年 6th year	合計 Total
医 学 科 Department of Medicine	定 員 Enrollment Limit	110	105	100	100	100	100	615
	在籍学生数 Present Number	110 (19)	121 (20)	97 (18)	103 (21)	108 (20)	102 (12)	641 (110)
保健学科 Department of Health Sciences	定 員 Enrollment Limit	137	137	137	137			548
	在籍学生数 Present Number	144 (107)	142 (109)	137 (95)	159 (111)			582 (422)
生命科学科 Department of Biomedical Science	定 員 Enrollment Limit	12	12	12	12			48
	在籍学生数 Present Number	14 (5)	16 (5)	14 (5)	15 (7)			59 (22)
合 計 Total	定 員 Enrollment Limit	259	254	249	249	100	100	1,211
	在籍学生数 Present Number	268	279	248	277	108	102	1,282

Figures in parentheses indicate the number of female students.

\* ( )内は女子で内数を示す。

## 大学院(修士課程)

Graduate School(Master's Course)

(平成22年5月1日現在)

As of May 1st, 2010

専 攻 名 Course	定員及び在籍学生数 Classification	1年 1st year	2年 2nd year	合計 Total
医科学専攻 Master Course in Graduate School of Medical Sciences	定 員 Enrollment Limit	20	20	40
	在籍学生数 Present Number	9	24	33
保健学専攻 Master Course in Graduate School of Medical Sciences, Department of Health Sciences	定 員 Enrollment Limit	20	20	40
	在籍学生数 Present Number	26	22	48
合 計 Total	定 員 Enrollment Limit	40	40	80
	在籍学生数 Present Number	35	46	81

## 大学院(専門職学位課程)

Graduate School(Master's Course)

(平成22年5月1日現在)

As of May 1st, 2010

専 攻 名 Course	定員及び在籍学生数 Classification	1年 1st year	2年 2nd year	合計 Total
医療経営・管理学専攻 Health Care Administration and Management	定 員 Enrollment Limit	20	20	40
	在籍学生数 Present Number	21	23	44
合 計 Total	定 員 Enrollment Limit	20	20	40
	在籍学生数 Present Number	21	23	44

大学院(博士課程)  
Graduate School(Doctor's Course)

(平成22年5月1日現在)  
As of May 1st, 2010

専攻名 Course	定員及び在籍学生数 Classification	1年 1st year	2年 2nd year	3年 3rd year	4年 4th year	合計 Total
機能制御医学専攻 Integrative Biomedical Sciences	定員 Enrollment Limit	—	—	—	25	25
	在籍学生数 Present Number	—	—	—	32	32
生殖発達医学専攻 Reproductive and Developmental Medicine	定員 Enrollment Limit	—	—	—	10	10
	在籍学生数 Present Number	—	—	—	7	7
病態医学専攻 Pathological Sciences	定員 Enrollment Limit	—	—	—	19	19
	在籍学生数 Present Number	—	—	—	14	14
臓器機能医学専攻 Medicine and Surgery	定員 Enrollment Limit	—	—	—	37	37
	在籍学生数 Present Number	—	—	—	83	83
分子常態医学専攻 Physiological Sciences	定員 Enrollment Limit	—	—	—	24	24
	在籍学生数 Present Number	—	—	—	7	7
環境社会医学専攻 Environmental Health and Socio-Medical Sciences	定員 Enrollment Limit	—	—	—	12	12
	在籍学生数 Present Number	—	—	—	9	9
医学専攻 Department of Medical Sciences	定員 Enrollment Limit	107	107	107	—	321
	在籍学生数 Present Number	108	124	120	—	352
保健学専攻 Doctor Course in Graduate School of Health Sciences	定員 Enrollment Limit	10	—	—	—	10
	在籍学生数 Present Number	11	—	—	—	11
合計 Total	定員 Enrollment Limit	117	107	127	127	478
	在籍学生数 Present Number	136	120	122	136	514

\*平成20年4月より1専攻化 \*保健学専攻は博士後期課程

(2) 学部卒業生数 Number of Graduates

(平成22年5月1日現在)  
As of May 1st, 2010

		平成 19年度 2007	平成 20年度 2008	平成 21年度 2009	平成3年7月1日 以降の卒業生数 (累計) Total (1991.7.1~2010.3.31)
医学科 Department of Medicine		100	98	106	1,972
保健学科 Department of Health Sciences	看護学専攻 Nursing Course	81	75	76	305
	放射線技術科学専攻 Radiological Sciences Course	38	34	29	135
	検査技術科学専攻 Medical Technology Course	40	38	36	152
	小計 Total	159	147	141	592
計 Total		259	245	247	2,564

\*医学部保健学科は、平成14年10月に九州大学医療技術短期大学部を改組して設置、第1回卒業生は平成19年3月。  
Department of Health Sciences founded at Oct. 2002. The graduate is from Mar. 2007

医学部(医学士)卒業生 学部(旧制)累計 4,863名  
 School of Medicine(Old system)

学部(新制 昭和24年以降入学～平成3年6月30日卒業)累計 3,858名  
 School of Medicine(New system 1949～1991.6.30)

医学専門部累計 838名  
 Medical College

### (3) 大学院学位授与者数 Doctorate Conferred

区分 Classification			平成 19年度 2007	平成 20年度 2008	平成 21年度 2009	平成3年7月1日 以降の学位授与者数 (累計) Total (1991.7.1～2010.3.31)
博士課程 Doctor Course	課程博士 Degrees Awarded	博士(医学) Doctor of Philosophy (Medical Science)	85	79	79	1,345
		博士(理学) Doctor of Science	1	0	0	82
	論文博士 Theses Accepted	博士(医学) Doctor of Philosophy (Medical Science)	29	32	26	1,047
		博士(理学) Doctor of Science	0	0	0	8
修士課程 Master Course		修士(医科学) Master of Medical Sciences	27	26	20	132
		修士(医療経営・管理学) Master of Public Health				38
専門職学位課程 Master Course		医療経営・管理学修士(専門職) Master of Public Health	27	20	20	115

博士学位授与者数 旧制学位(福岡医科大学、九州帝国大学、九州大学)累計 5,310名  
 Doctorate Conferred Old system

新制学位 課程博士(昭和24年以降入学～平成3年6月30日授与)累計 医学博士 892名  
 New system Degrees Awarded(1949～1991.6.30) 理学博士 15名

論文博士(昭和28年～平成3年6月30日授与)累計 医学博士 1,549名  
 Theses Accepted(1953～1991.6.30)

## 図書・雑誌 / Books and Journals

(平成22年3月31日現在)  
 As of March 31st, 2010

区分 Classification	図書 Books	学術雑誌 Journals
和書 Japanese	143,117冊	3,438種
洋書 Foreign	208,395冊	8,918種
計 Total	351,512冊	12,356種

蔵書数は医学図書館及び病院地区の研究室を含む。

## 平成23年度入学者選抜の基本方針(入学要件、選抜方式、配点等)

入学定員：110名 一般入試（前期日程95名、後期日程15名）

### (1) 大学入試センター試験及び個別学力検査等の配点

前期日程

	国語	地理・歴史	公民	数学	理科	外国語	面接	計
センター試験	100	50		100	150	100	－	500
個別学力検査	－	－	－	250	250	200	－	700
計	100	50		350	400	300	－	1,200

後期日程

	国語	地理・歴史	公民	数学	理科	外国語	面接	計
センター試験	100	50		100	200	50	－	500
個別学力検査	－	－	－	－	－	150	100	250
計	100	50		100	200	200	100	750

### (2) 個別学力検査実施教科・科目等

前期日程

	数 学	理 科	外国語
科 目	数 学 I 数 学 II 数 学 III 数 学 A 数 学 B 数 学 C 6科目	物理 I・物理 II 化学 I・化学 II 2科目	英 語 英語 II リーディング ライティング ド イ ツ 語 フ ラ ン ス 語 1科目選択
配 点	250(150分)	250(150分)	200(120分)

後期日程

科 目 等	配 点	試 験 時 間
英語 英語 II リーディング ライティング	150	90
面 接	100	1人20分以内



九州大学医学部では、外国の大学との交流を推進しています。交流プログラムに参加した学生の報告を紹介します。

## 釜山大学校医科大学との交流プログラムの報告

医学科3年 山元 範昭

### ●スケジュール

#### 釜山(5日間)

- 2009年7月13日(1日目): 10時博多港発12時55分釜山港着。お互いの学生同士が顔合わせ。  
心肺機能の講義と、心肺蘇生法(CPR)による救命処置(BLS)の実習。
- 7月14日(2日目): 午前: 全員で病院キャンパス内の見学。  
九大小児外科、田口教授の英語によるセミナー。  
午後: 各自が希望した診療科において、各教授の指導のもとで実習。
- 7月15日(3日目): 各自が希望した診療科において、各教授の指導のもとで実習。  
7月16日(4日目):  
7月17日(5日目): 九大学生17時55分帰国。

#### 福岡(4日間)

- 2009年7月21日(1日目): 釜山大学校学生が9時半釜山港発12時30分博多港着。  
医学部長への表敬訪問の後、歓迎会。
- 7月22日(2日目): 午前、九大医学教育学教員の指導のもとで英語による医療面接の指導。  
午後、総合せき損センター見学。引き続き、九大光学医療診療部で遠隔医療の見学。
- 7月23日(3日目): 午前、午後に、2つの診療科において研修及び見学。  
7月24日(4日目): 釜山大学校学生12時30分博多港発。帰国。

九州大学と韓国の釜山大学校医科大学とは、毎年交流会を開いています。1週間ずつお互いの学校が相手校の学生を受け入れて実習を行い、社会的・医学的に多くのことを学ぶと同時にお互いの理解と交流を深めることが目的です。今年は7人の学生がこのプログラムに参加し、全員が非常に貴重な体験を得ることができたと感じています。

まず、釜山ヘビートル(船)で釜山港に到着すると、釜山大学校の学生のみなさんに熱烈な歓迎を受けました。各診療科研修において行動を共にするパートナーが事前に決まっていたので、ここでお互いが初顔合わせとなり自己紹介しました。私もすごく緊張しましたが、韓国の学生はみなとても熱心に話しかけてくれるので全員がすぐに打ち解けられました。釜山では新キャンパス内の病院における診療科見学が主な実習の内容で、私は小児外科を見学しました。手術室の見学中の説明も英語で行われるため、医学専門英語をしっかりと把握しておく必要があります。九大では2年次から「医学英語」を学べる国際医学クラスがあるため、私はなんと



遠隔医療の見学  
(奥のディスプレイはマレーシア会場の映像)



英語による医療面接

か理解することができました。英語を使つての実習は間違いなく良い刺激になります。

九大での実習は釜山側よりも1日短かったです。内容はとても濃いものでした。まず、医学教育学の吉田教授と倉本講師の指導のもと、英語による医療面接の体験実習を行いました。一人ずつ医師役として患者から話を聞き、適切な応答の仕方を学びました。患者役の方も外国の先生たちで、英語の話し方や会話の進め方について丁寧な指導をしていただきました。私も精一杯頑張りましたが難しいものでした。飯塚の総合せき損センターや遠隔医療の見学も行い、釜山大学の学生と一緒に医療の一面を学びました。また、診療科での実習も行いました。私は病理部と小児科を回りました。病理部では死因を調べるための剖検を見学し、小児科では主に診察に立ち会いました。診療科の先生方も英語で解説していただきましたが、単に聞くだけでなく、パートナーに説明するためには話すための英語がやはり必要です。

ここで挙げた内容はほんの一部に過ぎず、述べられない多くの体験がこの交流関係行事には含まれています。私はこのプログラムの中で、自分自身の学問への姿勢を見つめ直すことができたと思っています。今後のこのプログラムを多くの九大生に体験して欲しいと切に願います。



## 仁済大学医学部との交流プログラムの報告

医学科5年 前原 純樹

### ●スケジュール

2009年3月15日(1日目): 渡韓・釜山到着、ホームステイ先へ移動

3月16日(2日目): 医学部長面談、PBL(11~13時)

PBL Discussion(16~18時)

3月17日(3日目): 解剖実習(14~18時)、PBL Discussion(16~18時)

3月18日(4日目): 理事長面談、PBL(11~13時)

PBL Discussion(16~18時)

3月19日(5日目): 生理学実習、PBL Discussion(16~18時)

3月20日(6日目): PBL(11~13時)、PBL Conference(14~16時)

医学部長面談

3月21日(7日目): 帰福

(注) PBL = Problem Based Learning  
カナダで始められた授業形態で「問題解決型授業」のこと

仁済大学では、臓器別の臨床講義の最初の1週間にPBLを行っており、既に彼らはこれまでに8度のPBLを経験していた。今回は私達九大生が参加するために英語でPBLが行われたが、英語でのPBLは彼らにとっても初めてとのことであった。

彼らは普段の講義は韓国語であるが医学用語については全て英語を用い、教科書も全てでは無いが洋書



の使用が推奨されている。そのため我々と比較して英語で議論を行う下地がすでに整っており、実際初めてとは思えないほどスムーズで活発な英語の議論が行われた。

1回のPBLは3度の議論と毎日午後の自習の時間、そして最終日の発表会から構成される。議論は1回2時間をフルに使って行われる。患者の症状から体のどの部位にどのような病変があるのかを図を描きながら最初の議論でじっくり話し合い、チューターから適宜示される検査データなども踏まえて診断と治療法の選択、さらには予想される患者の予後とその疾患の社会的背景まで話し合う。

議論の中で生じた疑問点とあらかじめ準備された課題をlearning goalとして、各自分担して自習時間に調べ上げ、レポートの形でチューターに提出する。最後に議論で完成したマップを示しながら全学生の前で各グループ毎に発表を行う。

議論の時間には実に活発で柔軟な話し合いを行うことが出来た。議論を通じて学習しようという意気込みを実感した。一方で毎日の午後の自習時間についてはまだ改善の余地があるように思えた。議論の時間とは異なりチューターがいないため、半ば息抜きの場合と化している。一つ前の分野の試験の直後にPBLが行われることになるので、彼らの気持ちもわからないわけではないのだが、この時間はPBLのためにとってある時間なので、なんとかもう少し有効に活用することができないだろうか。

それに付け加えて、自習時間に各々が調べたlearning goalのレポートを全員で共有し、フィードバックを行う取り組みが決定的に不十分であったことは非常に残念である。彼らに聞くと、このフィードバックは本来自習時間に行うものだが、上記のような理由から十分に行えていないのが現状のようである。議論によって得られるものも多いのは確かだが、このPBLは臨床講義の一環として行われていることなので、フィードバックにより重要な知識の習得を確実にすることは非常に大切である。せっかくグループ学習を行える環境が整っているのだから、それを最大限活かさなければもったいない。

彼らに倣いこちらでもPBLを行おうとする場合、履修課程のどの段階でPBLを行うべきかというのが大きな問題である。

臨床知識の習得が目的であれば講義より前に行えばよいが、該当分野における基本的な知識を持たずに議論を行った場合、的外れな議論に時間を費やしたり、より専門的な議論に話が及ばない危険性がある。一方で講義後に行えば議論そのものよりも診断結果を当てることを優先してしまい、議論が委縮してしまう可能性がある。理想的な議論が行える体制についてはまだ工夫が必要であると感じた。これは単に私の意見であるが、例えば異なる学年の学生同士でPBLを行ってみてはどうだろうか。下級生組は自由な発想で議論を行い、上級生組は必要に応じて専門知識を提供し、もちろん議論にも参加する。知識の共有化と上下間の交流が行えるという点で有効だと思えるがどうだろう。



発表を行っている 前原純樹さん



仁済大学の学生が九州大学病院を見学（2008.1）



小児の肝癌に対する肝切除手術を見学

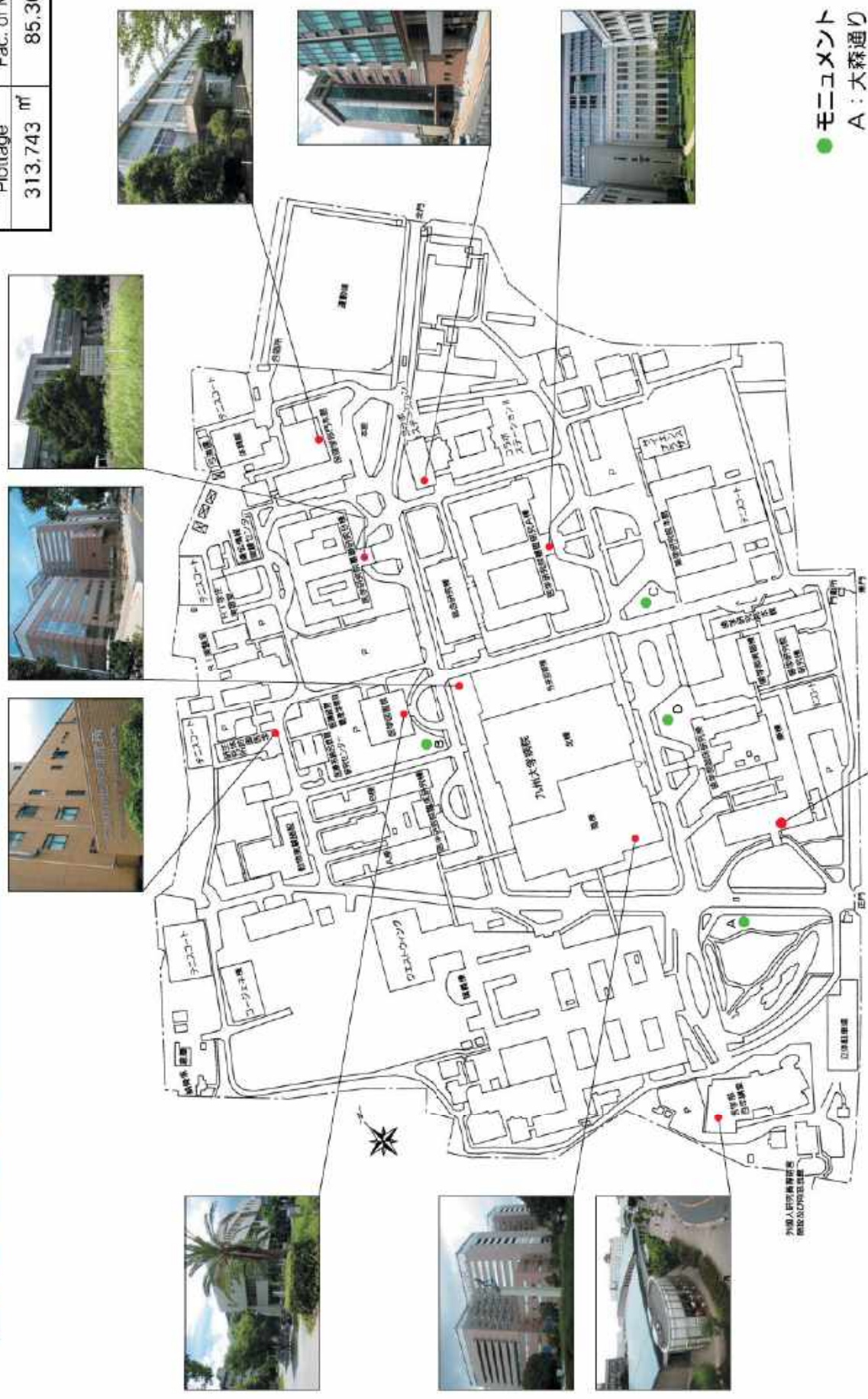


手術室受付の前で



# 建物配置図 CAMPUS MAP

病院地区 Hospital Area	敷地面積 Plotage	313,743 ㎡	医学部建物 Fac. of Med.	85,309 ㎡
-----------------------	-----------------	-----------	-----------------------	----------



- モニメント
- A : 大森通り
- B : 宮入通り
- C : 田原通り
- D : 稲田通り

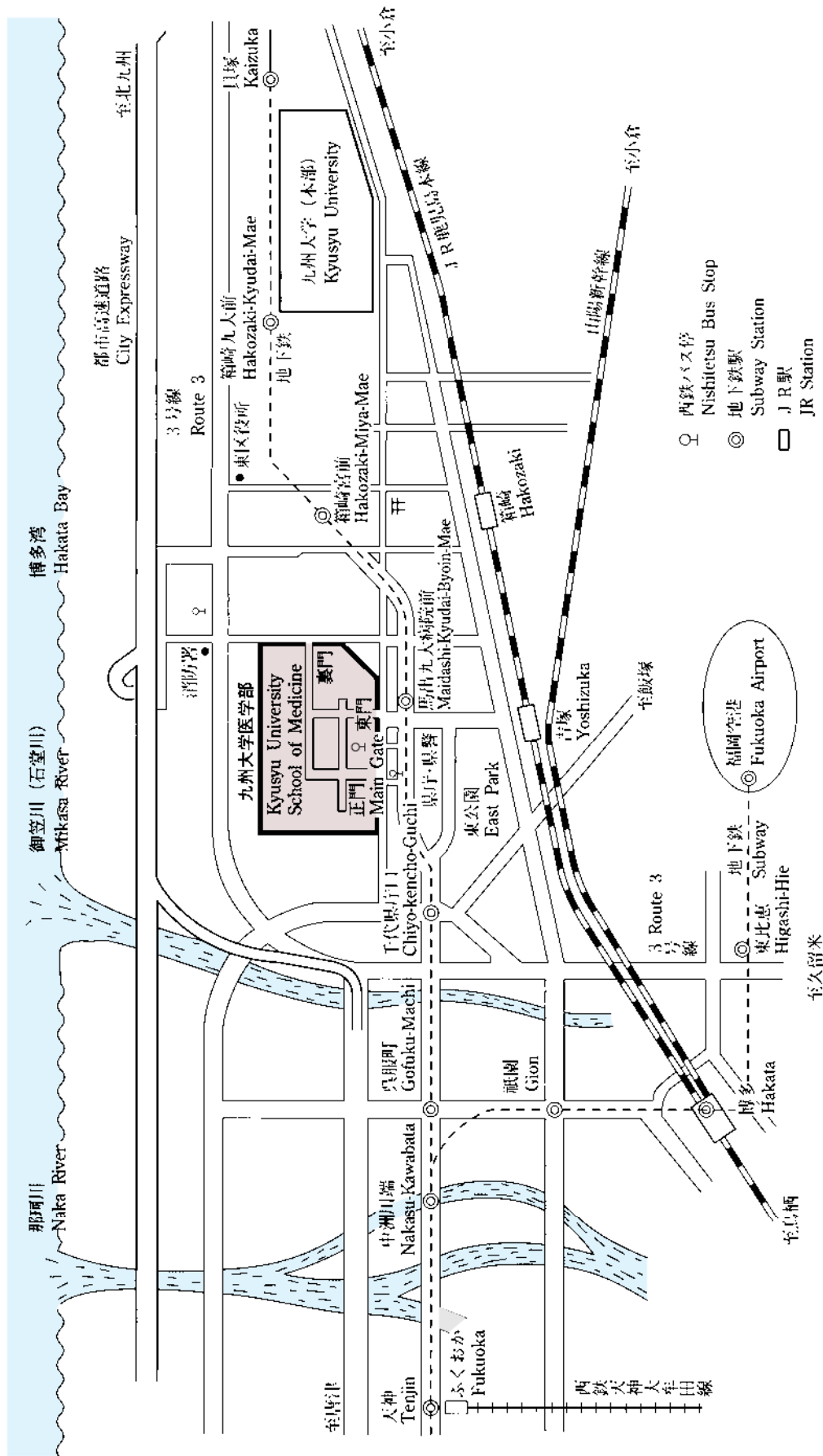
医学部生係



# 所在地略図 AREA MAP

## 医学部医学科、生命科学科

〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1番1号 ☎092-642-6020 FAX. 092-642-6189  
 3-1-1 Madashi Higashi-ku, Fukuoka City 812-8582 http://www.med.kyusyu-u.ac.jp/



○ 博多駅から地下鉄（中洲川端駅で乗り替え）で約10分

Subway service from Hakata Station to Maidashi-Kyudai-Byoin-Mae is a 10 minutes' ride, but necessary to change trains at Nakasu-Kawabata on the way

○ 博多駅から西鉄バス（系統番号10番九大前又は吉塚営業所行き）で約15分

Nishitetsu bus service, No.10 Kyudai-Mae or Yoshizuka-Eigyosho-Yuki, from Hakata Station to Kencho-Kyudai-Mae is a 15 minutes' ride

○ 福岡空港からタクシーで約20分

20 minutes' taxi ride from Fukuoka Airport

○ 福岡インターチェンジから約20分

20 minutes' car ride from Fukuoka Interchange

CH<sub>3</sub>

Thym

